

リンゴの通年供給を支える 地域農業組織と支援

《1. リンゴ市場の現状と問題点》

日本のリンゴ市場は、時期別におおよそ3つに分けることができます。第1に、12月までに販売する年内市場。第2に、1月から3月までに販売する短期貯蔵リンゴ市場。第3に4月以降販売する長期貯蔵リンゴ市場です。そして、1月以降の市場は青森県の独壇場です。

このように分けられるのは、栽培条件と貯蔵条件が異なるからです。年内市場は常温で保管しますが、短期貯蔵リンゴは普通冷蔵庫により、長期貯蔵リンゴは二酸化炭素を調整するCA冷蔵庫により保管します。また、長期貯蔵リンゴは、果実に袋をかける有袋栽培が必要となります。

そして、現在問題になっていることは、この長期貯蔵リンゴの供給が長期縮小傾向にあり、不足気味であることです(図1)。

単位:千t

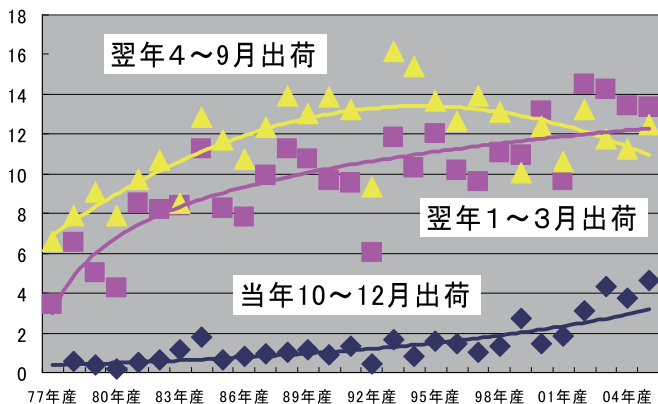


図1/青森県「ふじ」の時期別出荷量
注: 三角、四角、菱等の点は実績、曲線はその近似曲線。
出所) 東京中央卸売市場年報各年版

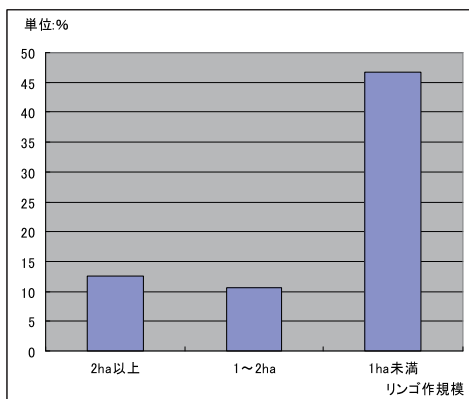


図2/ふじの有袋栽培割合
注: 青森県の代表的なリンゴ集落の全戸調査(33戸)の結果

《2. 長期貯蔵リンゴ供給を支える小規模農家》

青森県において、長期貯蔵リンゴ向けの有袋栽培リンゴ生産を支えるのは、リンゴ作規模1ha未満の小規模リンゴ農

東北活性化研究チーム

長谷川啓哉

HASEGAWA, Tetsuya



家です。東北農業研究センターの調査では、リンゴ作規模1~2ha、2ha以上の農家に比べて、この1ha未満層の有袋栽培比率が非常に高いことが明らかになっています(図2)。長期貯蔵リンゴの安定供給には、これらの農家の維持は重要な課題です。

ところが、この1ha未満のリンゴ農家は労働力が弱体で、剪定作業や薬剤防除作業など、リンゴの収量向上や品質向上に欠かすことのできない重要な作業を委託できなければ存続できません(表1)。

単位:%

作業	リンゴ作規模		
	2ha以上	1~2ha	1ha未満
剪定	0	0	64
薬剤防除	0	0	69

出所) 図2と同じ

表1/リンゴ作業の委託割合

《3. 小規模農家を支える組織の支援》

小規模農家の剪定作業を受託するのが剪定請負集団であり、薬剤防除作業を受託するのが共同防除組織です。これらの組織は、長期貯蔵リンゴの供給や産地のリンゴの品質を支える点で、産地のリンゴ販売全体に大きく貢献しています。ところが、労働力弱体化の問題がこれらにも及び、オペレータなど作業の担い手に対する支援が必要となっています。

たとえば青森県K農協では、共同防除組織を活用して減農薬に取り組み、役員に販売対応活動を求める一方で、組織に財政的支援を行っています。同じくS農協では、剪定請負賃金の決定や剪定請負の仲介など、剪定請負市場に関与することによって、剪定請負集団を支援しています。このような取り組みは、リンゴの通年供給を通して産地を維持していく上で評価されるものです。